

リーディングDXスクール事業【実践事例】

米子市立啓成小学校（鳥取県）

【取組内容④】 Jamboardを活用した、授業研究会の実施

協議の視点「授業づくりの視点は達成されていたかどうか」

記入事項 …… みんなで考えてみたいこと（問い）

記入事項 …… 個人の意見・感想

上記の事項について、付箋の色を変えてシート2・3・4に書き出してください

グループとしての問いや代案

代案

- ・遊んでいるのを動画にとって、みんなで客観的に動画を見てアドバイスをする。
- ・「遊び方の説明を聞く場面」を中心に活動する方が「遊び方」にしやすいのではないか。

問い

- ・低学年のICTに関するスキルアップのためにしたほうがよいことは？

ICTについてその他

- ・ICTのスキルアップのための カリキュラム作成が必要



Jamboardによる協議は、今まで付箋を用いて行っていたKJ法の代案として行った。整理のしやすさ、他グループでの振り返りの共有のしやすさ、保存のしやすさについて大きな利点があった。実際に協議しながら気がついたことをすぐに書き込んだり、付箋を動かしたりする職員の様子を見ると、協議の円滑化に大きく役立ったと思われる。

④教科の見方・考え方について

→自分達が作ったおもちゃを使って遊び、友達とルールや遊び方の工夫を相談する活動を通して、友達と一緒に遊びを創り出す面白さに気づき、遊びを創り出すことができるようになる。

「遊び方」に限定するため、遊ぶ説明だけを聞く学習にしたら、「遊び方」に限定されたのではないかな。

児童が遊びを楽しむ姿は大いにあったが、ゴールの思考においては、遊び方というキーワードの捉え方がまちまちだったように感じた。

学習のゴールを提示したのが、よかった。「遊び方」の工夫はすでに考えた上でのアドバイスは、少し困難さがみられた。

相手意識を大切に声掛けがよかった。

おもちゃを創り出す喜びや面白さを味わうことができていた。そこからの工夫が遊びの中でアドバイスまでに行き着きにくい児童もいた。（アドバイスのコツは、よかった。）

「遊び方に注視して」との発問に対し、具体的にどのように声かけばいいのか迷っていたように見受けられた。

2年生においてどのような働きかけや声掛けをするか悩まれているか。

コツや支援を提示